

田んぼの生きもの調査 結果発表

2008年7月6日（日）

## 生活クラブ愛知 田んぼの生きもの調査

日時：2008年7月6日（日）AM9:30～PM3:00

主催：生活クラブ愛知

参加者：生活クラブ愛知（組合員と家族、まちづくり委員ほか）、

JA ひまわり、音羽米生産者 合計約 35名

調査地：愛知県豊川市荻町 生活クラブ「音羽米」生産者の田んぼ

生活クラブ愛知と交流がある愛知県東部の田園地帯、音羽町で初の田んぼの生きもの調査が開催されました。この地区のお米は「音羽米」として、愛知県内の生協組合員に親しまれています。この日は日ごろ食べているお米の田んぼを組合員親子約30名が訪れました。

午前中には生物多様性農業支援センター代表の原耕造が講演。「兵庫県豊岡市でコウノトリの放鳥が実現したのは農家、市民、行政が協力したから」と、幅広い市民の協力の上で田園自然を復元する大切さを語りました。また、「生きものが食の作り手、食べる人の共通言語、共通テーマになると考え、1999年に田んぼの生きもの調査を始めた。それまで差別化商品としての有機農業はあったが、環境のため、よりよい農業のためという運動論がなかった」と、田んぼの生きもの調査の意義について語りました。続いて、インストラクターの林鷹央が「1年に40,000種が絶滅している現在の環境破壊に危険を感じる。山から森、里、海へとつながる環境のなかで、田んぼは重要」といったメッセージを自身で撮影した豊富な写真、自作のイラストとともに伝えました。

午後には、実際に田んぼへ出て生きもの調査を行いました。調査開始とともに、大きなシマヘビがあらわれ、参加者を出迎えます。稲が膝丈まで育ち田んぼの中には入りづらい状態でしたが、あぜから手にした網を伸ばし、現れる生きものを観察しました。また、土のサンプルを取り、土のなかの生きものも観察。5種類ものカエルが飛び回り、田んぼのなかでアカハライモリが見つかるなど、田んぼに豊かな生物多様性があることが実感できました。生活クラブ愛知 町づくり委員の板倉さんは、「田んぼに入るのは始めてだったが、田んぼの大切さ、田んぼが環境を守る役割を意識して感謝してご飯をいただくきっかけ作りになった。これからは、虫たちがいて、田んぼと環境を守っている人がいる、と感謝してご飯を食べられます」と、話しています。

### 見つかった生きもの：

トノサマガエル、ダルマガエル、アマガエル、ツチガエル、ヌマガエル、ミジンコ、カブ

トエビ、ヒラマキミズマイマイ、チビゲンゴロウ、ヒメガムシ、ヒメアメンボ、ケシカタ  
ビロアメンボ、トンボ（不明）、ハシリグモ類、アシナガグモ類、ウシアブ、アオバアリガ  
タハネカクシ、ヒシバツタ、ショウリョウバツタ、シマヘビ、アカハライモリ、カワニナ、  
ドブシジミ、マツモムシ

#### 考察：生物多様性農業支援センター 事務局 原覚俊

ヤゴ、水生昆虫が少なかったのは中干し直後であることが原因していると思います。密  
度調査はしていませんが、イネミズゾウムシ、コバネイナゴ、ドロオイムシといった害虫  
が数えるほどしか見つかりませんでした。無数に跳ね回る 5 種類ものカエルや、クモが害  
虫を盛んに食べているのだと思います。カエルを狙ってアオダイショウも見つかりました。  
生物多様性のバランスが取れている田んぼだと思いました。

ウキクサ、アオウキクサが繁茂していましたが、雑草を抑える働きがあるので、これな  
らきっと除草剤を使わずに栽培できるでしょう。



「生きもの調査は、生きものを活用した環境を守る  
米作りにつなげていくことが大切」

生物多様性農業支援センター代表 原耕造による講演



アカハライモリの幼生が、田んぼのなかにいた。  
水がきれいで餌生物が豊富な証拠だ



あぜから、手にした金魚網を伸ばして観察した



たくさんの生きものが見つかった。

とくにカエルは5種類見つかри、豊かな生態系を物語る